

“ふじのくに” 士民協働事業仕分け結果（事業別個表）

事業番号	18	事業名	県民参加の森づくり推進事業費
------	----	-----	----------------

1 基本情報

実施日／班名	10月16日 第1班	時間	13:00～14:10
担当課名	くらし・環境部 環境ふれあい課	事業費	4,540千円

2 判定結果

仕分け結果		県民評価者判定内訳(人)					
県実施 (一部見直し)	判定 区 分 別	行政関与不要	1				
		行政関与必要	⑱	国・市町実施	2		
				県実施	⑰	抜本見直し	6
						一部見直し	⑨
	現行・拡充	2					
判定理由別	仕分け結果と同一区分を判定した県民評価者の主な判定理由内訳(人、複数回答有)						
		・県の役割(市町、関係団体、県民等との役割分担)を見直すべき		5			
		・事業効果の把握・検証方法や目標の設定方法を見直すべき		4			
		・他の事業との関係を整理すべき		4			

3 具体的な見直し・改善策又はその他意見

<p><行政関与不要></p> <ul style="list-style-type: none"> 針葉樹林は、保水量が少ない、水産業の寄与が多い、花粉症、林業が経営的に成立しなくなっているなどの理由で、将来的には闊葉樹林(落葉灌木、照葉樹など)へ移行することを考えたほうが良い。 自然の復元、癒しの場、動植物採集、動物との共生などの面から、人工林から自然林への転換を望む。 <p><国・市町実施></p> <ul style="list-style-type: none"> 環境問題として森林がとても大切だということがよくわかった。 <p><県実施(抜本見直し)></p> <ul style="list-style-type: none"> 「広報や啓発」だけでなく、他のもっと大きな目標、森の計画的整備や地球温暖化と絡めて事業展開すべき。 意図・目的が不明確なまま事業をしているように感じた。 広報活動(県民大作戦や未来の森サポーター制度)については継続して欲しいが、より県民に身近に感じられるように事業展開して欲しい。 以前1つだった環境森林部を森林局と環境局に分けた意味がない。 森林局と環境局に分けている意味が理解できない。森林局で実施するのが当然だと思う。 林業を職業としている人へのサポーター等をもっとしていけばいいと思う。実際に林業に携わっている人が少なくなってきたため、森林も少なくなり、手入れもされていない状態が増えているので、県民参加型の森づくりではなく、林業家への投資、サポートを考えていくべき。 森林、林業に係る県の執行体制、森林局、農林業局、環境局があるが、それぞれにまたがった事業があっ

たり、環境局でやる事業かと疑問に思うところもあるので、もう少し各局でやる事業の見直しや組織体制を考えていったほうがいいのでは。

- ・ 組織の弊害による効率の悪さを強く感じた。局が複数にまたいだテーマは難しい。
- ・ 森づくりへの理解と参加という目的は理解できた。森に親しめば病む若者も減るかもしれないと感じた。

<県実施(一部見直し)>

- ・ 広報ばかりで参加者を増やすだけでなく、もっと長期に及ぼす成果を描いていることが必要と思う。
- ・ 縦割り行政となっており関係部がもっと連携したものにすべき。連絡調整する中で、どうしても以前の踏襲に入ってしまうのではなかろうか。組織改正はあくまでも県民サイドの中での業務の意味づけをして欲しい。水源涵養や保水についても、もっと広報してもよい。
- ・ 平成12年度から10年以上経過して県人口の0.5%の県民参加率というのは伸びとしてどうか。
- ・ 森づくりは水源涵養に結びつくので、永年的に事業を継続して欲しい。治山・治水は行政の大切な仕事である。
- ・ 農林事務所の地域性を生かした森作りを考えると、もっと地域の参加が必要だが、これは市町の範囲なのか。県・市で一緒になった森づくりもできるのでは。
- ・ 森林局と別に環境局も森林づくりを行っているが、今後は全体的に森林がどのように変わったか評価して欲しい。環境保全をもっとPRして、活動の幅を民間へ拡大していけるようにして欲しい。
- ・ 本活動を知りませんでした。身近に感じられなかった。イベントではなく日常的な森づくりが必要なのでは。
- ・ 森林の手入れをしないと自然災害、例えば台風が来たときなど被害が大きくなるので、長い目で予算をとって継続して欲しい。
- ・ あくまでも市民団体の活動を補助する方向へ進めて欲しい。
- ・ 総合的に組織の簡素化をしていく。

<県実施(現行・拡充)>

- ・ 里山が荒れ、放置されていることにより様々な弊害が出ている。行政の主導でこれを整備する動機作りとなれば、本事業は必要と思うが、これだけ少額の予算では現在の活動が精一杯と思われる。国や市・県、一体となって環境整備が進むことを望む。
- ・ 県民参加の森づくり推進事業についての仕分けであるが、質疑は執行体制、何故森林局でできないかといった質問に終始したり、ピントをもって、効率的にやるべきだ。時間的制約があるのだから、専門委員ももう少しわかりやすい質問をしたらどうか。回答者の答弁がもう少し明瞭単純に答えて欲しいが、あの質問では答えようがないかもしれない。
- ・ 森づくり県民大作戦の参加者が増えていること、森林資源の成熟期を迎え「森や木を活用する」活動が相対的に重要であること、現在適切に森を活用し、森づくりを進めなければ重大な障害が生まれること、災害の発生、環境の維持、漁業への影響など非常に多くあること、などの理由から現状維持でよい。
- ・ 農業をやっているが、畑を荒らす動物が多いのは里山が荒れているせい。荒れた竹林が増えて森林の価値が下がる、台風で被害が多く出るなど、悪い影響も多い。ボランティアに頼ってばかりではいけないが、事業の拡充を。